

春日部地区 (南部エリア) 担当の小林です。今回水稻の圃場に生える雑草イネについてお話しさせていただきます。

雑草イネとは通常の稲そっくりな見た目をしているが特徴は①脱粒性が高い②籾の先端や芒が赤色③背丈の違い (大小あり) などがあります。さらに、多くの雑草イネの玄米は赤色などの特徴があります。

【※こういった特徴に当てはまらない雑草イネの品種もあるので注意が必要です】

雑草イネが発生すると収量の低下や着色米の混入などの問題が発生します。また、作業機械に種が付着して他の圃場に発生が拡大する被害が増えてしまいます。発生が栽培期間中であれば籾をこぼさないよう抜き取り圃場外に持ち出します。収穫後の場合はひこばえに非選択性除草剤を散布するほか、次期作の発生を抑えるため石灰窒素を散布するなどの対策がおすすめです。また、種が落ちた可能性がある圃場では雑草イネの発生前に水稻除草剤を使用するなどの防除方法があります。



移植水稻の場合は、株間や畝間から出ているイネは前年の圃場で育った籾がこぼれたものだと考えられるので、確認をして必要に応じて上記の処理をしていただければと思います。圃場にて気になるイネがあればTACまたはお近くの営農経済センターまでご連絡ください。



1mを超えるようなサイズの雑草イネ



通常の稲より大きい雑草イネ